

1-3. 環境科学研究所の沿革

- 1975年（昭和50年） 静岡県立静岡薬科大学に環境科学研究所が設置される。
- 1987年（昭和62年） 静岡県立大学の開学に伴い、薬学部環境科学研究施設となる。
- 1991年（平成3年） 大学院生活健康科学研究科環境物質科学専攻（修士課程：2大講座・11研究室が設置される。
環境科学研究施設は生活健康科学研究科の付置施設に移行する。
- 1995年（平成7年） 環境物質科学専攻の博士課程（前期・後期）が開設される。
- 1996年（平成8年） 環境科学研究棟が竣工され、2大講座・13研究室の体制（教授9人、助教授4人、助手13人）となる。
- 1997年（平成9年） 環境科学研究施設が大学付置の環境科学研究所に昇格する。
研究所教授会が設置され、5部門・13研究室の体制で教員全員が大学院環境物質科学専攻を兼務する。
- 2005年（平成17年） 研究所附置の地域環境啓発センターが開設される。

1-4. 研究所職員の異動

- 2008年2月 環境工学研究室に関川貴寛助教が着任
- 2008年3月 環境微生物学研究室、大橋典男教授が食品栄養科学部に異動
環境政策研究室、佐野慶一郎准教授が退職
- 2008年6月 環境政策研究室に国包章一教授が着任
環境政策研究室、谷幸則助教が、環境微生物学研究室、准教授に昇進着任
- 2008年11月 水質・土壌研究室に光延聖助教が着任